

お前が人を殺すのだ(改変Ver.)

作者:○助様

改変: [高生紳士様の動画](#)を元に改変

元シナリオURL:

<https://www.tumblr.com/manmaru-xxx/71698728741/%E3%82%AF%E3%83%88%E3%82%A5%E3%83%AB%E3%83%95%E7%A5%9E%E8%A9%B1trpg%E4%B8%80%E4%BA%BA%E7%94%A8%E3%82%B7%E3%83%8A%E3%83%AA%E3%82%AA%E3%81%8A%E5%89%8D%E3%81%8C%E4%BA%BA%E3%82%92%E6%AE%BA%E3%81%99%E3%81%A%E3%81%A0>

赤文字...改変箇所

青文字...KP用補足

概要・作者コメント

「さて、罪人は誰だ？」

タイトル:「お前が人を殺すのだ」

推奨技能:なし

推奨人数:タイマン(改変によっては複数/KPレスも可)

シナリオ傾向:探索者の倫理観を問う、一本道シナリオ

一人用シナリオです。サクッとSANの減る話を目指しました。

推奨技能は特にありません、SANは高い方がいいかもしれません。

夢の中の裁判所で{PC}達は様々な罪人を裁いていくことになります。

お話の中であげられた二人の中から悪い、罪人だと思う方を選んでもらいます、選ばれた方は目の前で処刑されます。檻には勿論鍵がかかっており鍵開けなどで開くこともありませんし、力づくで壊すこともできません。中にいる人間は己の証言をするのみでこちらからの声は聞こえません。

基本的に扉は奥にある一枚しかなく、その部屋の裁判が終わるまで(PLが罪人を選ぶまで)開くことはありません、通った扉は閉まり、戻ることはできません、故に基本一方通行です。

{PC}が途中で罪人を助けようとしたり、他に逃げ道がないか部屋の中をウロウロしはじめたらぼんやり逃げ道はないことを伝えてあげてください。

それでもしつこく罪人を助けようとした場合、覆面の男が殺しにきたり、新たな罪人とみなされ罪人用の処刑道具でさっくり殺されシナリオ終了(目が覚める)となります。SANが減らないのである意味正解なのかもしれません。

一本道を歩いてたら発狂してた、をテーマにつくった話なので、息抜きなどにサクッとどうでしょうか。

KPメモ：

弁論、陳述

①公判開始

②人定質問

③罪状認否

④検察官の冒頭陳述、弁護人の証拠意見、検察官の証拠説明

⑤検察官の証拠意見、弁護人の証拠説明

⑥証人尋問

⑦被告人質問

⑧検察官の論告・弁b五人の弁論

⑨被告人の最終陳述

⑩判決言い渡し

導入

とある晩、{PC}は眠りに就く。

次に目が覚めると、そこは小さな法廷だった。慣れない布の感覚に{PC}が視線下ろすと、裁判官のようなローブを着ていた。

目の前には、檻が二つ。その中に人がいる。法廷の奥には扉が見える。

扉の前にも覆面をかぶった人間が一人立っていた。彼は{PC}に向かって口を開いた。

「君が罪を裁くのだ。さて、罪人はどちらだ？」

▶扉を開けようとする

開かない。

▼犬の飼い主と猫の飼い主

※高生紳士様が新規追加された改変箇所。

「とあるところに、犬の飼い主がいた。

ある日、飼っている犬が逃げ出してしまった。

犬が逃げた先には猫がおり、犬はその猫を噛み殺してしまう。

それを見た猫の飼い主は激怒し、犬を蹴る。

犬の飼い主が追いかけた時には時すでに遅く、犬は猫の飼い主によって殺されていた」

「原告、証言をどうぞ」

猫の飼い主「罪のないうちの子になんてことを！ 許していいはずがありません！」

「被告、証言をどうぞ」

犬の飼い主「なんでうちの子がこんな目に。私がよく見ていれば……」

「さて、罪人はどちらだ？」

猫の飼い主の主張：

「先に仕掛けたのはそっちじゃない！」

「うちの子を殺されなければ、あたしが罪を犯すこともなかった」

「被害者は黙ってなきゃいけないってこと？」

▶どうして俺が裁く？

「あなたから見た意見を聞きたい」

「あなたの基準で、あなたの物差しで決めればいい」

▶罪人を助けようとする、抵抗する、従わないなど

→[殺害エンド](#)へ

▶罪人がどちらか選ぶ

「{PC}様、判決の理由は？」

「判決が下された。それでは、刑を執行する」

※描写は選んだ罪人によって適宜変えること。

ポタ。猫の飼い主の檻の中、四方八方から犬が現れる。犬の飼い主が飼っていたのだろうか、{PC}には分からない。何匹も現れた犬は、猫の飼い主に向かって一斉に飛びかかった。猫の飼い主は悲鳴を上げるが、その悲鳴も虚しく、犬は猫の飼い主を食い殺してしまった。

☆目の前の惨状にSANc(0/1d3)

犬の飼い主は「ひ、」と声を漏らす。

覆面の人物が{PC}に話しかける。

「{PC}様、ではこちらへ」

彼は一步退いて、扉をあなたに見せる。

「次に裁いてほしい者がいる」

▶扉の先に進む

{PC}が扉の先に進むと、また同じような光景が広がっている。

一つ変わったことがあるとすれば、檻の中の人物だ。

覆面の人物が語り出す。

▼夫婦

「とある日本にひと組の夫婦がいた。

ささいな失敗で旦那は妻を殴った。妻は娘と二人毎日旦那の暴力におびえていた。

ある日妻は耐え切れなくなった。娘を守るため妻は包丁を振りかざし、夫を切った。

幸い命はとりとめたものの、男はベッドから二度と起き上がれない身体になった」

「原告、証言をどうぞ」

夫「俺はわるくねえ、どうして俺がこんなめにあわなきゃならないんだ」

「被告、証言をどうぞ」

妻「ごめんなさい、ごめんなさい、このまま娘が殺されてしまうから」

「さて、罪人はどちらだ？」

夫の主張：

「殴った理由？ 気は利かねえし、しっかり家事もできねえし。生意気でむかつくんだ。人を苛立たせるほうが悪いだろ」

「でも、とかだって、とか当たり前で、むかついたんだよ」

「だって、俺が頑張って働いてるうちにだぜ」

「俺はもう動けない体になっちゃったんだぞ」

「俺の体はもうどうやっても動かねえ。お前はなるべく酷い目に遭えばいい」

「一度俺を刺したやつに面倒を見てもらうなんて、怖くてしかたないな」

「でもこいつは動けるだろ。俺はしっかり加減してたんだよ」

妻の主張：

「このままじゃ娘が殺されてしまうと思って、とっさに体が動いて」
「私はどうなってもよかった。でも、いつ娘に手が出されるかと思うと、怖くて」
「今考えれば、他にやり方はあったかもしれませんが。でも、これで刺してしまえば、もう怯えなくてすむんだって、思ってしまった」
「ごめんなさい」
「夫のことは……愛しているのでしょうか……」
「許されるとは思っていません。許されたとしても、彼とまた上手くやっていけるかは……」
「娘に幸せになってほしいです」

▶罪人がどちらか選ぶ

「{PC}様、判決の理由は？」
「判決が下された。それでは、刑を執行する」

※描写は選んだ罪人によって適宜変えること。

檻の中、四方八方から刃が現れ、夫に向かってグサグサと突き刺さる。旦那は「痛い、痛いッ！」と悲鳴を上げるが、無数に突き出される刃を避けることは叶わない。抵抗も虚しく、彼は切り刻まれてしまった。

☆目の前の惨状にSANc(0/1d3)

処刑方法→四方八方から刃が突き出し切り刻まれる(0/1d3)

妻は恐怖から蹲って動けなくなっている。
覆面の人物が{PC}に話しかける。
「{PC}様、ではこちらへ」
彼は一步退いて、扉をあなたに見せる。
「次に裁いてほしい者がいる」

▼いじめ

「とある学校にいじめっこといじめられっ子がいた。
いじめられっ子は毎日殴る、蹴るのいじめを受けていた。どうして自分がこんな目にあうのだと毎日憤っていた。
いじめっ子は昔、気の優しい良い子だった。しかし彼の家は貧乏で、それを周りが馬鹿にし、いじめたのだった。今のいじめられっ子も、彼をいじめていた一人だった。
いじめっ子は成長して強くなった。そして彼は、昔自分をいじめた少年に、同じことをしたのだった」

「原告、証言をどうぞ」

いじめられっ子「どうして僕がこんな目に！ ゆるさないゆるさない」

「被告、証言をどうぞ」

いじめっ子「俺は悪くない、あいつがいけない、あいつが俺をいじめたのがいけないんだ！」

「さて、罪人はどちらだ？」

いじめられっ子の主張:

「僕知らないよ。人をいじめたことなんてない」

「殴ったり蹴ったり、酷いんだ。ここに痣もある。学校に行くのも怖い」

「仮に昔本当に僕がいじめてたとして、小さい時の話だ。今やってるほうが悪いだろ」

いじめっ子の主張:

「やられっぱなしが嫌だった」

「俺の家が貧乏なだけで、どうしていじめられなきゃいけないんだ」

「俺はこれを、復讐だと思っている」

「やってしまえば、こんなもんかって思った。俺をいじめてた時みたいに威勢はないし、逃げるし」

「同じ方法でやり返したいと思った」

「これでおあいこってやつだろ？」

「あいつがいじめてきた分、俺もやり返した。これで終わりだ」

「こいつは覚えてないんだ。俺をいじめてたこと、何一つ」

「いじめたほうは何も覚えてなくて、されたほうはずっと覚えてる。そういうことだよ」

※年齢は高校生くらい。

▶罪人がどちらか選ぶ

「{PC}様、判決の理由は？」

「判決が下された。それでは、刑を執行する」

※描写は選んだ罪人によって適宜変えること。

突如、檻の天井からロープが垂れる。いじめっ子は逃げたいだろうに、体が硬直し動けないようだ。ロープがゆっくり、ゆっくりと下がり、いじめっ子の首にかかる。そして、ロープが勢いよく上へ引き上げられる。始めこそ苦しんでいたものの、次第に体が動かなくなっていく。

☆目の前の惨状にSANc(0/1d3)

処刑方法→天井からロープが垂れ、無理やり首にかけられる。(0/1d3)

いじめられっ子は「ひい」と後ろに下がり、壁に背をつけている。

覆面の人物が{PC}に話しかける。

「{PC}様、ではこちらへ」

彼は一歩退いて、扉をあなたに見せる。

「次に裁いてほしい者がいる」

▼捨て子

とある町に、ひと組の親子がいた。母子家庭だった。

母親は息子を養うために毎日毎日身を粉にして働いた。朝も昼も晩も食うものも食わず、睡眠も削って働いた。しかし生活は苦しくなるばかりだった。

母親はついに耐えられなくなった。このままでは私も息子もいずれ死んでしまう。母親は子供を捨てた。仕方がなかったと言い聞かせた。その後母親はであった男と再婚した。食うや食わずや、盗みを働き必死に生きた子供は母親を酷く恨んだ、彼は母親の幸せを壊したかった、そうして彼は彼女の旦那を、殺した。

「ひと組の親子がいた。母子家庭だった。」

母親は娘を養うために毎日毎日身を粉にして働いた。朝も昼も晩も食うものも食わず、睡眠時間も削って働いた。しかし生活は苦しくなるばかりだった。そのストレスから、娘に当たって暴力を振るうこともあった。

ある日、娘に消えない大きな傷跡を残してしまった。このままでは耐えられないと悟った母親は、公共に頼った。精神状態に問題があると診断を受け、娘は施設に引き取られることとなった。その後母親は社会復帰し、出会った男と再婚した。しかし娘は母親を酷く恨んでいた。彼女は母親の幸せを壊したいと願い、母親の旦那を殺した」

「原告、証言をどうぞ」

母親「どうして彼が死ななければならなかったの」

「被告、証言をどうぞ」

娘「どうして私を捨てたの、許さない、絶対にゆるさない」

「さて、罪人はどちらだ？」

母の主張：

「このまま私というより……私と離れたほうが、この子は幸せになれると思って」

娘の主張：

「戻ってくればいいじゃん、私のところに。私をまた、養える理由ができたなら。でも戻ってこなかった」

「私見たの。母さんが男と歩いてるところ。綺麗な服着てさ、私のところには戻ってこなかったのに、自分だけ幸せになるなんて」

「私は幸せになれなかったのに！」

「私を生んだ母さんは一人しかいないのに……」

▶罪人がどちらか選ぶ

「{PC}様、判決の理由は？」

「判決が下された。それでは、刑を執行する」

※描写は選んだ罪人によって適宜変えること。

娘の体に異変が起きる。みるみると体が痩せていき、声も出せなくなる。虚ろな目で空を見上げる彼女は、最後には骨と皮のみとなった。がくり、と軽くなった体はその場に崩れた。

☆目の前の惨状にSANc(0/1d3)

処刑方法→みるみると体がやせてゆき餓死(0/1d3)

目の前で娘が死んだにも係わらず、母親は顔を上げようとしない。

「どうして、どうして」と呟いている。

覆面の人物が{PC}に話しかける。

「{PC}様、ではこちらへ」

彼は一步退いて、扉をあなたに見せる。

「次に裁いてほしい者がいる」

▼戦争

とあるB国で戦争があった、そこに暮らすだけの罪のない人々が次々殺された。戦争をしかけたのはAという国だった。B国はA国を長年支配においていた、金を食物を人間を搾取し殺し続けた。

A国の王様

「民を助けたかった、この国を助けたかった」

B国の王様

「罪のない民がたくさん殺された、この国を豊かにしたかった」

処刑方法→四方八方からの発砲をうけ、穴だらけになって死ぬ(0/1d3)

▼正義と悪

正義の味方と悪の大王

とある地球に二人の男がいた、一人はこの世界をを守ろうとした、自分の周りの人々が笑い、幸せに暮らすこの世界を愛していた。一人はこの世界をこわそうとした、戦争が、飢えが、病が蔓延するこの世界を嘆いていた、彼はこの世界を作り直そうとした、誰も平等に暮らせる平和な世界にしようとした。人々はこぞって彼を悪の大王だといった。

正義の味方

「私はこの平和な世界を守りたい、この綺麗な世界をまもりたいんだ」

悪の大王

「どうして人は私を悪の大王だとさげすむのだろう、この世界を壊すことの何が悪なんだ、私は世界を綺麗なものにしたいだけなのに」

処刑方法→ギロチン(正義が死んだ時はブーイングが巻き起こり、悪が死んだ時は大歓声がある)

(0/1d3)

▼人体練成

人体練成をした錬金術師と犠牲者の家族

とある村で大量の人間が死んだ、犯人はその村に住む錬金術師の男だった、男は妻をよみがえらせようとした、その妻は先日村人たちに殺された、魔女狩りだと火あぶりにされ殺された。錬金術は、失敗におわった。

犠牲者の家族

「罪のない我々の家族が死んだ！ やつは犯罪者だ！ 犯罪者だ！！」

錬金術師

「どうして妻が殺されねばならなかったのか、妻は毎日言っていた、村の者たちと仲良くしたいと毎日考えていた、どうして妻が殺されなければならなかったのか」

処刑方法→火あぶり(男が死ねばすすり泣く声が頭の中に響き、村人の歓声が聞こえる)

(0/1d3)

▼ 因習村

※人体錬成を参考に、より世界観を近づけて新規作成

※大事な人の大量殺人にシチュエーションを近づけるため

「とある村で大量の人間が死んだ。犯人はその町に住む女だった。女は魔術によって、友人を蘇らせるために、たくさんの人を殺した。蘇らせたかった友人は、先日村人たちに、村の風習により火あぶりにして殺された。友人を蘇らせるその魔術は、失敗に終わった」

「原告、証言をどうぞ」

犠牲者家族「罪のない私の夫が死んだ！」「私の母もだ！」「ねえ、パパはどこにいっちゃったの……？」

「「「やつは犯罪者だ！ 犯罪者だ！」」」

「被告、証言をどうぞ」

女「どうしてあの子が殺されなければならなかったの。優しい子だった。村の人たちともずっと仲良くしていた。どうして、こんな……」

「さて、罪人はどちらだ？」

犠牲者家族の主張：

「村は大昔、何度も水害に遭った。神さまの怒りを鎮めるために捧げものとして村の女性を遣わしてから、水害がめっきり減った。それからずっと、50年に一度、神さまへ独り身の女性を遣わしているのじゃ」

「あの子はくじで選ばれた、それだけじゃ」

女の主張：

「神さまなんていないって気づいたの。こんな風習、間違ってる」

「選ばれたのがあたしだったら良かったのに。あの子が死ぬなんておかしい」

「あたしがたくさんの人を殺したのは事実で、あの子がこの世にいないのも事実。ならもう、この世に思い残すことはないわ」

「あたしを裁いてくれて構わない」

▶罪人がどちらか選ぶ

「{PC}様、判決の理由は？」

「判決が下された。それでは、刑を執行する」

※描写は選んだ罪人によって適宜変えること。

瞬きを一つすれば、舞台は法廷から打って変わり、村のような場所にいる。見れば女が磔になり、火あぶりにされている。光を灯さない瞳で遠くを見て黙っている女とは対照的に、{PC}の周りでは村人の歓声が上がる。

☆目の前の惨状にSANc(0/1d3)

覆面の人物が{PC}に話しかける。

「{PC}様、ではこちらへ」

彼は一步退いて、扉をあなたに見せる。

「最後に裁いてほしい者がいる」

▼大事な人

※君の大事な人間が大量殺人を起こした。

※このシナリオの核となる部分です。ここまでの裁判はぶっちゃけシステムを理解してもらうための茶番でしかないので、話を作り替えたり増やしたり減らしたりしていただいて構いません。もし複数人でプレイしている場合は6の裁判が終わった段階で次の部屋へ進む扉が人数分あることにしてください。覆面の男が別々の扉へ入るよう促します。

ここで{PC}達にとっての、自分の一番大切な人をあげてもらってください、両親、恋人、友人、恩師、誰でもかまいません。思い浮かべた大切な人、が次の部屋では今まで同様、罪人として檻の中に閉じ込められています。

その手には血まみれになった包丁が握られており、{PC}達が声をかけても気づくことはありません。真っ赤に染まった姿でうつむき、うわごとのようにごめんなさいと繰り返しています。

反対側の檻には、怒りと悲しみが混ざったような表情で{PC}の大切な人を睨む人間が数十人捉えられています。彼らは口々に人殺し！悪魔め！と檻に向かって罵声と怒号をあげています。

{PC}がここでなにかの行動を起こす前に、覆面の男が例によって例のごとく声を上げます。

【通常用】

檻が、二つある。{PC}から見て左には、怒りと悲しみが混ざったような表情のたくさん人間が、老若男女問わず入っている。

その人々は次々に「人殺し！」「悪魔め！」と罵声を浴びせている。

罵声と怒号を浴びせられている向こう側の檻、そこには――あなたの大事な人(友人、恋人)などが立っている。

彼の服は血まみれになって、片手には包丁が握られている。彼はうわごとのように「ごめんなさい」「ごめんなさい」と繰り返している。

あなたのよく知る{KPC}で間違いないだろう。

【染谷兄弟用】

檻が、二つある。{PC}から見て左には、怒りと悲しみが混ざったような表情のたくさん人間が、老若男女問わず入っている。

その人々は次々に「人殺し！」「悪魔め！」と罵声を浴びせている。
罵声と怒号を浴びせられている向こう側の檻、そこには——{PC}がよく知る人物が立っている。
彼の服は血まみれになって、片手には鉄パイプが握られている。彼はずっと沈黙したままだ。
あなたをよく知る{KPC}で間違いないだろう。

▶声をかける

【聞き耳】

「{PC}、……」と小さくあなたの名前を呟いた声が聞こえる。

とある男(大事な人が女性の場合は女)が無差別に人間を殺した。
人殺しと、殺された被害者たち。さて、罪人はどちらだ？

※ここで言う人殺しとは当然檻に入れられている{PC}の大事な人です。ここがこのシナリオ唯一の分岐点となるでしょう。

「原告、証言をどうぞ」

被害者家族の主張：

「私の娘は殺されました。目の前のこいつに！……何もしてません、私の娘は！」

「俺の恋人だってそうだ、二人で歩いていたら急に殺されたんだ。こいつで間違いないよ」

「僕のお母さんは、お母さん……」

「もうお前のことを忘れることは無いだろうな！ 殺したやつのは！」

「被告、証言をどうぞ」

人殺しの主張：

「ごめんなさい、ごめんなさい、ごめんなさい……」/「……」

「さて、罪人はどちらだ？」

▶人殺し{KPC}を罪人を選ぶ

→[人殺しを罪人を選んだへ](#)

▶被害者遺族を罪人を選ぶ

→[被害者遺族を罪人を選んだへ](#)

■人殺しを罪人を選んだ

「{PC}様、判決の理由は？」

「判決が下された。それでは、{PC}様が自ら裁きなさい」

いつの間にか、{PC}の手には包丁が握られていた。

{PC}の身体は自分の意志とは関係なく、まるで導かれるように歩みを進める。それに合わせるかのようにして、ゆっくり、目の前の檻が開いていく。

隣の檻からは声がしない。否、聞こえなかった。「ごめんなさい」という泣き声の混じった声をかき消すかのように、包丁を握った{PC}は、目の前の人間を、

刺した。

何度も、何度も、何度も、何度も。

「っかは、……ツ」

刺した。刺した。刺した。刺した。

「ごめん、なさい……ごめ、なさい……」

ゆっくり、速く、とめどなく。何度も、何度も、何度も。

「ごめ、なさ……ごめん、なさい……ごめ……なさ……」

肉体が原形をとどめなくなるほどに刺し続けるのだった。

「……、{PC}……」

数えられないほどに刺してようやく、{PC}の手によって、目の前の人物は息絶えた。

☆SANc(1d6/1d20)

→[共通](#)へ

■被害者遺族を罪人に選んだ

「{PC}様、判決の理由は？」

「判決が下された。それでは、罪人に殺された被害者の遺族たちに罪を償って貰おう。{PC}様が自ら裁きなさい」

いつの間にか、{PC}の手には包丁が握られていた。

{PC}の身体は自分の意志とは関係なく、まるで導かれるように歩みを進める。それに合わせるかのようにして、ゆっくり、目の前の檻が開いていく。

檻の中を行く{PC}を、人々は恐怖に満ちた目で見ると。逃げたくても、身体を動かすことができないようだった。

「嫌！」

「来るな！」

「やめて！」

「悪魔だ！」

人々の泣き声や怒り声が空間に埋まる。それらをかき消すかのように、包丁を握った{PC}は、目の前の人間を、

刺した。

何度も、何度も、何度も、何度も。

「っかは、……ツ」

刺した。刺した。刺した。刺した。

「いやあああ……ッ！」

ゆっくり、速く、とめどなく。何度も、何度も、何度も。

「 」

聞いていられないような叫び声が無数に轟く檻の中で、その声が聞こえているのかいないのか、{PC}は肉体が原形をとどめなくなるほどに刺し続けるのだった。

数えられないほどに刺してようやく、完全に声が聞こえなくなった。
{PC}の手によって断たれた命が、その檻の中にごろごろと転がっている。
☆SANc(1d3/1d10)

→[共通](#)へ

「そうか、それでは罪人の家族である遺族たちに罪を償って貰おう」覆面の男が言う。

君の大事な人間の表情が変わり、一気に凶悪なものとなって笑う「ケケケケ、ありがとう○○」と君に向かってお礼をいい、檻から放たれたかと思うと檻に入れられた遺族らをめった刺しにして殺すのだった。血まみれになった彼(彼女)は笑いながら奥の扉の向こうに消えていった(1d3/1d10)

ここでの一時的発狂は自殺癖であるとよい。大事な人を殺してしまった後悔や、罪を償うという自己完結型からの後追い自殺、理由はなんでもよい。体よく手には包丁があるのでそのままグサッと死んでもらおう。ここはあくまで夢の中なので本当に死ぬことはなく、目覚めが最悪になるだけなので安心だ。この時、残された被害者の家族達からは歓声があがっている。

■共通

もう体は自由に動く。隣の檻の人々は姿を消している。
この空間には覆面の人物と{PC}しかいない。

「さて、自らの手で人を裁いたご感想は？」

「最後にもう一部屋ある。どうぞ、こちらへ」

▶案内に従う

→[最後の部屋](#)へ

▶自殺する

狂気に浸されているのか、いないのか。{PC}は既に血に濡れた包丁を自らにも向け、ぐさりと体に突き刺した。死体の上に崩れ落ちる。この赤色が、自身の血であるかどうか分からない。激しい痛みを自覚する前に、{PC}の意識は途切れた。

☆SANc(1/1d3)

▶人殺しを罪人に選んだ

→[大事な人を殺して目が覚めたへ](#)

▶被害者遺族を罪人に選んだ

→[被害者遺族を殺して目が覚めたへ](#)

ここで発狂しなかった場合、相当精神の屈強な{PC}だが次の扉に進もうと一步踏み出したところで背後から声がする。以下の文章参照。

「...ドウジ、デ、」それは聞き覚えのある声だった。ガボゴボと、水中から泡の登るような雑音に混ざって聞こえたその声は、まぎれもなく貴方が先ほど、その手に握った包丁でめった刺しにした、君の愛する人(大切な人)の声だった。貴方の体はまるで金縛りにでもあったかのように動かない。その間にもつぶれた腕が貴方の身体にまとわりつき、まだ生温かい血液がその背中をねっとりと濡らす。肉をひきずるように這い寄ったそいつは、貴方の耳元で、確かに、こうささやいた。「ド、ウジデ、ダズゲデ、グレナガッ、タノ？」

気づけば貴方の背中には、あなたが先ほど使用したものと全く同じ形の包丁が突き刺さっていた。「1/1d3」

このまま{PC}は意識が遠のき、背中にへばりついた人間と一緒に血だまりに沈みます。そのままブラックアウト

最後の部屋

最後の扉を開ける。そこには、今まで{PC}に殺されてきた人々、殺されなかった人々。この空間で出会った全ての人々が立っていた。{KPC}の姿だけ、見当たらない。

「お疲れ様。大変だっただろう？ もう大丈夫だ。これで終わりだから」
そう言って人々から{PC}に向かって拍手が送られる。しかし、{PC}にその音は聞こえない。

「{PC}様。これは全部、悪い夢だ。いかがだったかな」

「ハッハッハッ！ ではこんな悪い夢は、終わりにしよう」
覆面の人物は、目の前の人々へ声をかける。
「さて、彼は罪人か？」

「この子にする！ だって可愛いから！」
「あなたといれて、私は幸せよ」
「大丈夫、明日はいじめられないよ」
「お母さん、明日結婚するの」
「村の人たち、喜んでくれるといいな」
「」

「おめでとう、{PC}」
ハハハハッと、高笑いが聞こえる。目の前の光景がぐるんと変わる。
{PC}は檻の中に入っていた。まるで今まで{PC}がここで出会った人々のように。

そして、目の前には{PC}が裁いた罪人たちがいる。彼らは{PC}へ恨みを込めた目を向ける。

「死罪だ」

「死罪だ」

「死罪だ」

「死罪だ」

「死罪だ」

罪人たちは声を揃えて{PC}へ死罪だと告げた。

「判決が下された。それでは、刑を執行する」

途端、{PC}の入っていた檻は、歓声とともに無情にも水に落ちていく。

ゆっくり、ゆっくりと沈められる。呼吸ができない。

やがて{PC}は、息を止めた。

☆SANc(1d3/1d10)

▶人殺しを罪人に選んだ

→[大事な人を殺して目が覚めたへ](#)

▶被害者遺族を罪人に選んだ

→[被害者遺族を殺して目が覚めたへ](#)

最後の扉をあけるとそこは檻の中である、いままで君がさばいてきた罪人たちがその向こうにいて、殺された姿のまま君を恨めしそうにみている。

男はいう罪人達にむかっていう「さて、彼(彼女)は罪人か？」

罪人達は声をそろえて「死刑だ！死罪だ！」と叫んでいる。

君の入っていた檻は歓声とともに無情にも水に沈められ、やがて君は窒息した。(1d3/1d10)

エンディング

目覚め

■被害者遺族を殺して目が覚めた

目が覚めると{PC}はベッドの上にいる。

嫌な汗をかいている。自分の頬に手を当てると、まるで水にぬれたようにべっとりとしている。

夢だったのか、そうでないのか。それは誰にも分からない。

■大事な人を殺して目が覚めた

目が覚めると{PC}はベッドの上にいる。

嫌な汗をかいている。自分の頬に手を当てる。べたり、とした感覚にその指を見る。
血だ。その手は赤く汚れていた。
夢だったのか、そうでないのか。それは誰にも分からない。

殺害エンド

覆面の人物は{PC}を一瞥し、声を発する。
「新たな罪人だ。では、刑を執行する」
その途端、{PC}の体は金縛りでもあったかのように動かない。覆面の執行人は{PC}の首根っこを掴み、引き摺って扉の先へ連れて行く。その先には、真四角の誰もいない檻があった。その中に無理矢理入れられ、覆面の人物はその部屋から去った。
途端、床一面に深い海が広がる。{PC}の入っている檻は、無情にも水に落ちていく。
ゆっくり、ゆっくりと沈められる。呼吸ができない。
やがて{PC}は、息を止めた。
☆SANc(1d3/1d6)

目が覚めると{PC}はベッドの上にいる。
嫌な汗をかいている。自分の頬に手を当てると、まるで水にぬれたようにべっとりとしている。
夢だったのか、そうでないのか。それは誰にも分からない。

クリア報酬

【クリア報酬】

- ・大事な人を殺した SAN回復1d20
- ・被害者遺族を殺した SAN回復1d10
- ・それ以外のエンド 報酬なし